

GDP比で北朝鮮以下

5月6日付の日経新聞に気になる記事が出ていた。アジア開発銀行研究所の河合正弘所長の、「あの北朝鮮以下。本当に情けない」というコメントが引用されていたのだ。海外から日本に向けた投資（対内直接投資）についての話だ。

海外から日本への投資が、他の先進国に比べて極端に少ないということはよく知られているが、ここまですごいとは考えていなかった。日本が受け入れてきた対内直接投資残高の対GDP比率は3.9%(ある)(2011年末)。北

伊藤 元重 機構開発研究理事 東大教授

朝鮮は12.5%であるという。核の危機を煽り、世界から孤立している北朝鮮でも、中国やロシアからの直接投資があり、経済規模であるGDPに対する比率で日本よりも大きくなっている。北朝鮮と比べることが本意ではない。GDPが極端に小さな北朝

努力足りぬ日本の投資誘致

鮮は、対内直接投資が大きいというよりは、比べる相手のGDPが小さすぎるのかもしれない。ただ、日本への直接投資はあまりにも少ない。ちなみに欧米の主要国は、この数値がすべて20%を超えている。

仮に日本が欧米の主要国なみに海外からの直接投資を受け入れる

ことができれば、それは大変な規模の投資額になる。それだけで日本経済の景気は一気に回復するはずである。捕らぬ狸の皮算用と言われるかもしれないが、海外から日本への投資を増やすことは日本経済にとってそれほど重要なことであるのだ。

話せる投資受け入れのための要員が何人もいるところで、米国のような先進国でも、地元へ海外からの投資を誘致するため、各州は様々な優遇措置を講じている。税制の優遇措置を準備しているところもある。より多くの投資を受け入れれば、それだけ雇用なども増えるというところで、各地域が競って投資誘致を行っている。

様々な施策も機能せず

先進国であらうが発展途上国であるのが、どの国でも海外からの投資を拡大するために様々な努力をしている。昔、中国の上海の近くの蘇州という所にいったときは、日本からの投資受け入れの担当者が現地の案内をしてくれた。聞くとここによると、蘇州という一つの市でも、こうした日本語が

こうした海外の動きを見ていると、日本の努力はとも足りないように思える。政府は何年も前から投資誘致を宣言し、様々な政策を行ってきたが、残念ながらそれらの政策は十分に機能していない。だから、今でも日本への海外

からの投資は相変わらず非常に低い状態が続いている。静岡県に対して、海外からどれくらいの投資が来ているか知っているだろうか。いま手元に資料がないので正確なことは言えないが、県内の経済の状況を見た限りでは、外資系企業が大挙して来ているとは、とても見えない。こうした状況は静岡だけの特別なことではないが、静岡経済にとっても深刻な問題である。

海外からの投資をどうやって拡大するのか、静岡県としても早急に具体的な策についての議論を始める必要がある。観光客を増やすことも重要だが、ひよっとしたら観光客誘致よりも投資誘致の方が、経済効果は大きいのかもしれない。

*この記事は静岡新聞社編集局調査部の許諾を得て転載しています。